



こんにちは

村田けい子 です

2016.7.29
No.61

みなさんのご意見・ご要望をお寄せ下さい。フェイスブックやっています。

発行/日本共産党立科町議会議員 村田桂子 立科町塩沢1483 ☎0267(56)2868

東京都知事選、反骨のジャーナリスト 鳥越俊太郎さんにご支援を！

「もうそろそろ梅雨明けかな？」と思っていたら、なんと一日中雨、どうなっているんでしょう、この頃のお天気は。まだ紫陽花もしっかりと咲いているし、でもひまわりも全開になっているし、真夏と梅雨の混在するこの頃ですね。

皆さん、水分をたっぷりとして、熱中症には気を付けてください。屋内にいても油断はできません。わたしも、頭が熱いと感じたら水道の水で首筋を冷やします。できるなら屋外の仕事は朝早くか、夕方の涼風が立ってからにしています。

さて東京では、熱い戦いが進行中です。今度こそ、クリーンな知事を選んでほしいものです。共産党も他の野党同様、鳥越俊太郎さんを推しています。東京にお知り合いの方がいらしたら、一声かけて下さるとうれしいです。

立科は風がさわやかなのが、宝物です。体調に気をつけてお過ごしください。



暑中お見舞い
申し上げます

議会のあるべき姿は？ 議会として政策立案で住民要求実現へ

- 7/9 町村議会改革シンポジウム
- 7/11 議会の組織と運営について
- 7/21 「議会の活性化と政策立案」

この間、3回立て続けに議会改革の方向性を探る講演会やシンポジウムが開かれ、大変勉強になりました。

地方分権一括法の施行に伴い「地域のことは地域で決める」という仕組み作りが急速に進む中で議会の役割は、ますます重くなっています。シンポジウムでは、明治学大学教授の牛山久仁彦明治学教授の基調講演を受けて、軽井沢町、南箕輪村、麻績村、飯綱町議会より、かんたん町の概要と議会改革の取り組みが披露されました。

議会では積極的に予算要望や条例提案を行い、住民の信頼に答えているとのこと。

次号でまた詳しくお伝えします。

詳細は次号で



名所にならない名所
細谷大池のハスの花



今週のパチリ

細谷大池のハスの花が見ごろを迎えています。穢れのない白い花姿は、お釈迦さまがお座りいただくのにぴったり。昔の人のセンスの良さに感服します。ここを観光名所と思ったら、ここは本来は稲作用のため池の為、ハスが生えては困ること、毎年のように駆除するんだそうですが、うまくいわずに繁茂してしまうんだそうです。

でも、早朝散歩にここを訪れることをお勧めします。心が洗われる気がします。

電算システム共同化事業からの脱退問題について

7月25日 議会全員協議会に報告される。7月27日には首長が参加する委員会があり、その報告は8月に入ってから受けます。

7月20日に開かれた電算システム共同化事業に参加する14町村の担当課長レベルでの幹事会で、立科町が共同化事業から抜けることが「その他」の議題となりました。幹事会の参加者は12自治体。幹事会に先立ち町は脱退届を15日までに事務局に提出してありましたが、正規の議題扱いではなく、「その他」の中で取り扱われたということです。

脱退の理由として

- ①経費削減の目的が果たせないこと
- ②年間1,000万円超えの経費が余分にかかること
- ③「共同化」を請け負うBSNアイネットの出てきた数字に、二重に経費が計上されるなど不自然なことが多く、再調査の必要があるのではないかと。の3点を挙げて、脱退の意向を示したとのことです。

12名による議論の中には、すでに実施している下条村などから「目に見えない経費が増えて職員の負担が増えている」などの声があったそうです。

立科町の提起を受けて、他の町村も無関係ではないので、引き続き、幹事会で協議することになりました。

7月27日には首長が参加する共同化委員会が開かれるので、事前に「議会の意向を聞きたい」と全員協議会が開かれました。

議員からは様々な意見が出ましたが、おおむね、「幹事会で立科町の疑問について協議することになったので、すぐ脱会ではなく、なぜ、こうした疑問が生じるのかを徹底して議論すべきではないか」という方向でまとまったように感じています。

私は、脱退してしまえば、町の疑問は議論されることなく、流されてしまう。他の自治体でも同様の問題があると考えられるので、幹事会で議論すべきである」と発言しました。

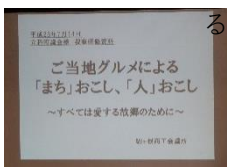
また、14の町村が結んだ協定の法的な効力について、こうした疑義がある以上、1億6千200万円余を全額支払うことが避けられないのかどうか、自治体行政に詳しい弁護士に相談することが必要ではないでしょうか。

また、なぜ、こうした検証を行わずに協定を結んだのか、当時の担当者や前町長から議会として事情を聴くなど、問題解決のための取り組みが求められます。

【7月14-15日 総務常任委員会視察報告】

駒ヶ根市ソースカツ丼会 会員数40 ...地元の食文化を全国に発信して町興し！

B級グルメのグランプリ「B-1グランプリ」に参加して、町のPR。観光協会の職員や役場職員などが、「駒ヶ根フライヤーズ」というファンクラブをつくり、個人としてイベントに参加して、部活感覚で町をPR。盛り上げているとのこと。地元の食に焦点を当て、徹底してこだわることで、知名度アップにつなげています。



食は町おこしになる！

るスライドによる説明を受け



「地元駒ヶ根の味を家庭でも」とソースの商品化。地元の「伊奈醤油」を使用。食品添加物はナシ。

「駒ヶ根かつ丼」とは

地元で昔から食べられておりどの店でも同じスタイル、

- 1、器は丼に限定。
 - 2、肉は豚肉のロース120g以上、
 - 3、カツはパン粉をつけて揚げたものでなければならない。
 - 4、丼のご飯の上のせるキャベツは細かく切って水に浸し、水分を切って載せる。
 - 5、汚れた油では上げない、油脂は自由。
 - 6、ソースは会で作ったものを基本的に工夫を。
 - 7、カツは切ってソースを潜らせてくぐらせ手から切っても自由
 - 8海苔などは載せないまたキャベツ以外の野菜は載せない。
 - 9、蓋は自由とする。
- など、かつ丼の基準を決めて加盟店で出す

駒ヶ根市と言えば、千畳敷カールや駒ヶ岳、光前寺の枝垂桜などで知られる山岳観光都市。人口33,000人。基幹産業はきれいな水を生かした精密機械工業や電機産業、そして養命酒の駒ヶ根工場で有名な市。

その駒ヶ根市が、ご当地グルメで町おこしをしようとB-1グランプリに毎年参加することで、駒ヶ根市の知名度アップにつなげようと頑張っています。グランプリへの参加は、フライヤーズの協力で年々増え、20~30代中心の30名が、各地に参加し、「チーム駒ヶ根」として「町を売りこむ」ことに努力していました。

はじまりは平成5年、国や県より3年間補助金約900万円の交付を受け、町おこしにカツ丼を決め、かつ丼会を設立。人生に勝つ(カツ)キャンペーンやユルキャラこまぶっの制定、イメージソング「恋するソースカツ丼」などメディアを活用し町おこしに知恵を絞っていました。



お屋はかつ丼会会長の店で「ソースカツ丼」ドンと大きなカツが載っており、カツを蓋の上にとかさないと食べられません。駒ヶ根市に行ったらカツ丼です。